第 13 回 WAAP 大会参加報告

三重大学大学院　博士後期課程 1 年
股村　真也

１）発表の概要（口頭発表）

【Fecal starch content as an indicator of starch digestibility by fattening Japanese Black cattle】

本研究は、デンプンが肉牛の肥育過程において重要な栄養素であることから、穀物資源の効率的な利用を目指し、日本の肥育牛に適したデンプン消化率の推定方法を開発することを目的としました。研究では、延べ 116 頭の肥育牛を対象に、デンプン消化率を測定しました。得られたデータを解析した結果、デンプン消化率と糞中デンプン含量との間に強い負の相関関係を見出し、これを元に一次回帰式を用いてデンプン消化率を推定することができることを示しました。この推定式は、北米を中心に行われた研究とは異なり、日本の肥育体系に適したものであることを確認しました。今後は農家現場で広く牛糞を収集し、糞中デンプン含量からデンプンの消化率を推定し，日本の肥育牛によるデンプンの利用実態を広く把握していきたいと考えています。

２）発表の状況

会場からの質問として日本で使用されているトウモロコシの輸入元について質問がありました。日本で飼料として使われているトウモロコシの多くはアメリカから輸入しており、トウモロコシの価格はアメリカの収穫状況に依存します。飼料自給率が低い日本においては、これらのデンプン資源を効率的に活用することが重要だと考えています。

３）大会の感想

本大会は私にとって初めての国際学会でした。研究室からの参加は私のみで、最初は不安を抱いていましたが、実際に参加してみると非常に価値ある経験でした。また発表以外の時間もとても貴重で、昼食やコーヒーブレイクの時間に多くの他の研究者とコミュニケーションを取り、畜産に関する議論を行うことができました。また、学会主催の若手研究者向けの交流会に参加し、博士課程の学生仲間と情報交換を行う機会もありました。さらに、学会に参加する前に名刺を作成し、自身のウェブサイトも整備したことで、他の研究者から興味を引き、議論の機会を増やすことができました。また、幸運にも学会が開催されたフランスで私の研究室と関係のある先生と会う機会も得られ、学会後にフランスの大学を訪問し研究を見学することができました。国際学会への参加は貴重な経験であり、できる限り多くのことを学び、経験するためには充分な準備が必要であると感じました。私の研究や学会の詳細については、私のウェブサイトでご覧いただけます。

https://www.masaya-research.com/